

配布資料一2

0 前回の振り返り

(今回ご議論いただきたいポイント)

- 1 伊丹市幼児教育推進計画に基づく取組
- 2 今後の幼児教育のあり方
- 3 公立幼児教育施設の果たすべき役割

	回数	内 容／関係課	幼児教育の あり方	適正規模 適正配置
全体会	第1回 (6/5)	■ 諮問概要について(両部会に共通する事項) ・諮問の趣旨、背景、戦略のイメージ、年少人口の推計について		
幼児教育部会	第1回 (6/5)	■ 幼児教育部会の概要 ・幼児教育を取り巻く状況、審議テーマについて(目指す幼児教育の姿、施設の適正規模・適正配置)	○	○
	第2回 (7/6)	■ 幼児教育のあり方について① ・過去の審議会答申や他自治体における取組も参考にしつつ、幼児教育推進計画に基づく取組を振り返り、伊丹市における今後の幼児教育のあり方について議論する。	○	
	第3回 (7/31)	■ 幼児教育のあり方について② ・これまでの議論を振り返り、幼児教育のあり方についてのまとめを行う。	○	
	第4回 (10月予定)	■ 公立幼児教育施設の適正規模・適正配置について① ・過去の審議会答申や伊丹市及び近隣自治体における取組を踏まえ、伊丹市のめざす幼児教育にとって適正な施設規模・配置について議論する。		○
	第5回 (11月予定)	■ 公立幼児教育施設の適正規模・適正配置について② ・これまでの議論を振り返り、公立幼児教育施設の適正規模・適正配置のまとめを行う。		○
	第6回 (1月予定)	■ 答申案の策定に向けて(部会) ・これまでの議論を振り返り、審議テーマのまとめを行う。	○	○
全体会	第2回 (2月予定)	■ 答申案の策定に向けて ・両部会の審議経過の確認、答申案、いたみ教育未来戦略の内容		

0 前回の振り返り(主なご意見①)

・取組評価・ビジョン

- ✓ 計画が策定された当時と現在では社会状況や教育を取り巻く環境が変化しています。そのため、現在の状況に必ずしも合わなくなっている部分もあるのではないかと思います。そうした点については、現状に合わせて見直しや再検討をしていく必要があるのではないのでしょうか
- ✓ 幼稚園だから、こども園だから、保育所だから、という部分は、この何年かをかけて幼児教育ビジョンをもとに心を一つにしながら進んできて、軌道に乗ってきたのではないかなというのを現場では感じています
- ✓ 「育てたい子ども像」の実現に向けたビジョンに示されている6つの項目が、全体を捉える重要な視点になるのではないかと
- ✓ 保育者の皆さんが工夫しながら整えられる環境づくりももちろん大切ですが、一方で、施設設備などハード面については市として整備していかなければ、保育者の努力だけでは対応が難しい部分があります。施設の老朽化といった課題もありますので、そうした環境整備は引き続き必要だと感じています。
- ✓ ビジョンの策定やセンターの設置については、これまでの流れの延長線上にあり、大変意義のある取組だったと感じています。幼児教育センターができたことで、伊丹市としてどの方向を目指しているのかが明確になり、迷わずに進むための指針になっていると実感しています
- ✓ 幼保連携型認定こども園のように異なる文化を持つ組織が一体となる場合、市が示してきたビジョンや方向性が、関係者の共通理解を形成し、それぞれの役割を整理していく上で大きな役割を果たしてきたのではないかと

・公立の役割

- ✓ 医療的ケア児への対応や、外国にルーツをもつ子どもたちへの保育など、これまでにはなかった新たな課題が増えてきています。そうした課題にどのように対応していくのかを示し、実際に先導的な取組を進めていくことが、公立幼児教育施設に求められる役割の一つではないか

0 前回の振り返り（主なご意見②）

・特別支援

- ✓ 今では私立施設でも受け入れが進んでいるというのは、保護者としてはとてもありがたいことだと思います。保護者によっては「この園の方針がいい」ということで選びたい方もいらっしゃるのですが、選択肢が増えることは大事
- ✓ 最も重要なのは、研修や経験の蓄積だけではなく、必要な人員を配置できる運営体制を確保できるかどうかだと思います。もちろん財政的な議論をする場ではありませんが、現場としては継続的な支援体制が確保されることを期待しています
- ✓ 近年は外国にルーツをもつ子どもたちも増えており、「どのように保育を進めていけばよいのか」と悩まれる先生方もおられると思います。そのため、そうした実践の積み重ねや事例の共有を進めていくことが重要

・幼保小連携

- ✓ 小学校との架け橋期の連携も、一施設だけではとても敷居が高いのですけれども、公立幼稚園や公立こども園を通じて、小学校の先生方とのつながりを作るというのは、今後も期待される部分
- ✓ 小学校との接続に向けた連携を進める際には、園が個別に小学校へ連絡を取り、日程調整を行う必要があります。そのため、どうしてもハードルが高くなりますし、小学校側にも負担をかけることとなります。現在は、幼児教育センターや拠点園がその役割を担ってくださっているため、大変助かっています

I 「今後の幼児教育のあり方」に関する論点整理

✓ これまでの議論及び過去の審議会答申等を踏まえ、
以下のとおり事務局案として論点整理を行いました。

…幼児教育ビジョン「育てたい子ども像の実現
にむけて」の取組項目のうち、関連するもの

	今後の方向性(案)	検討の視点(案)
①	特別支援教育の先導的な役割 保育者の資質向上 個々に応じた支援の充実 豊かな保育環境	- 公立幼児教育施設が果たすべき役割(ハブ機能、セーフティネット、教育機会の保障等)の明確化 - 外国にルーツを持つ子どもたちへの支援など新たな課題への対応
②	幼児教育の研修・研究の先導的な役割 保育者の資質向上 豊かな保育環境	- 幼児教育センター・拠点園の役割 - 専門性を高めるための取組、情報発信のあり方
③	幼保小連携の先導的な役割 幼保小接続	- 幼児教育センター・拠点園の役割 - 小学校への接続を円滑にするため必要な取組とは
④	家庭・地域と連携した子育て支援拠点の役割 保護者支援 地域とのつながり 豊かな保育環境	- 家庭・地域と幼児教育施設のつながり強化 - 幼児教育施設が果たすべき役割(ハブ機能、セーフティネット、教育機会の保障等)の明確化 - こども・子育てを応援するための取組とは
⑤	預かり保育の実施時間の拡充、満3歳児保育の実施 保護者支援	幼児教育の充実策として、それぞれの取組内容を踏まえ、本市において実施すべきかどうか

(参考) 公立就学前施設の職員数等の推移等

【公立就学前施設の職員数等の推移】

(伊丹市統計書より作成)

年度	種別	幼稚園			保育所			こども園		
		施設数	職員数	児童数	施設数	職員数	児童数	施設数	職員数	児童数
R5(2023)		6	42	397	5	208	672	4	169	895
R6(2024)		6	39	374	5	223	731	4	178	864
R7(2025)		6	39	330	5	224	732	4	179	828

職員ひとりあたりの
児童数(R7年度)

幼稚園
8.5人

私立幼稚園も
概ね同程度

保育所
3.3人

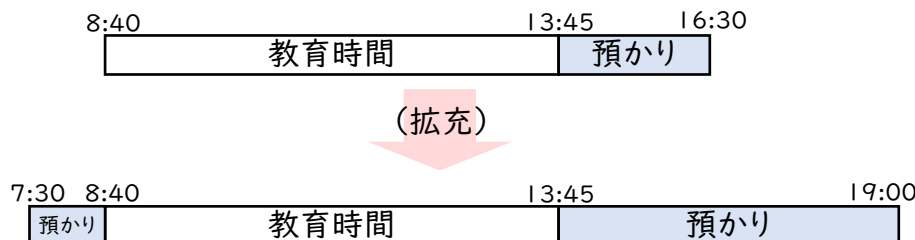
朝夕・加配・フリー等の
配置があり3~5歳児
のみの算出は難しい

こども園
4.6人

【預かり保育の実施時間の拡充】

働きながら子育てする家庭等を支援するため、幼稚園・こども園の教育時間前後の預かり保育(一時預かり事業)の実施時間について拡充する取組(実施自治体:尼崎市・三田市など)。

(イメージ) 現行⇒拡充後



【満3歳児保育の実施】

幼稚園における満3歳児保育とは・・・

年度の途中で3歳の誕生日を迎えた園児がその日以降に幼稚園に入園すること。満3歳児クラスがある場合は、幼稚園の園則により満3歳児クラスとして入園した日から無償化の対象となる。

・満3歳児保育・実施施設(伊丹市内)

- ✓ 王たるキリスト幼稚園
- ✓ 月影幼稚園
- ✓ ロザリオ幼稚園
- ✓ 美鈴月影幼稚園
- ✓ 野間幼稚園



【子育て支援(例:おぎの幼稚園)】

1. 園庭開放

[学期中の平日毎日] 13:00~16:00もしくは13:45~16:00

2. 幼稚園みんなのひろば(未就園児対象)

幼稚園の園庭で在園のおにいさんやおねえさんと一緒に遊べます。

少し年上の子どもの様子が見られる良い機会になります。



3. にじいろ保育(特別支援)

- ✓ にじいろ保護者研修会(年3回)
- ✓ にじいろ広場(月1回)
- ✓ にじいろ保育貸出図書
- ✓ にじいろ保育大型遊具貸出



【地域交流】

⑥地域とのつながりを大切にします

地域では、様々な行事が四季折々行われており、子どもの生活に彩りと楽しみが得られます。

また、就学前の親子遊びの場は、子育ての不安解消や、ご近所づきあいのきっかけを作るとともに、地域の温かいまなざしに見守られています。

子どもにとって地域とは、様々なおとなや価値観と出会い、多様な体験を積み重ねながら育つ場所です。子どもは成長し、やがて地域の一員としてまちづくりを担っていきます。

今後も、幼稚園、保育所、認定こども園等の就学前施設、家庭、そして地域とが、一層つながりを強め、総がかりで子どもを育てていきます。

(出典:伊丹市幼児教育ビジョン)

地域交流の取組例(交流・協力の相手方)

- 幼年消防クラブ組替え式(消防署)
- 交通安全教室(伊丹警察署)
- どんぐりたいけん(人と自然の博物館)
- にこにこ絵本タイム(絵本サークル)
- 七夕飾りづくり(クラフトサークル)
- ふれあい清掃(小学校地区自治協議会)
- “そらぐみ海遊館”へようこそ(地域の未就学児童を招待)
- 遊戯室が暗くなり、プラネタリウムのように(こども文化科学館)

